



## 《将来に向けた取組方針》

日本酸素ホールディングスグループは、2021年に気候変動の緩和と適応、資源の有効活用と汚染の防止、水資源の保全、生物多様性の保全といった環境課題の解決に向け、製品・サービスや事業活動を通じて環境負荷を削減することを掲げた「日本酸素ホールディングスグループ環境方針」を策定しました。そして、「生物多様性の保全」をマテリアリティの一つと位置付け、取り組んでいます。私たちは生物多様性宣言の趣旨に賛同し、今後も、生物多様性の保全に寄与する事業活動を推進してまいります。

## 〈具体的取り組み事例〉

### 猛禽類保護への支援活動

サーモス社では、猛禽類保護活動の応援を目的にオリジナルボトルを販売しています。本製品の売上収益金の一部は、猛禽類医学研究所を通じて、オオワシ、オジロワシ、シマフクロウなどの絶滅の危機に瀕した野生動物の保護に使われます。



### 緑化保全活動

マチソン社では、世界環境デーに水素施設の建設現場での植樹活動を行いました。また、日本での足尾銅山での苗木の植樹の他、イタリアやポルトガルなど、グローバルでの植樹活動を通じて火災などにより破壊された土地の再植林、動植物種の生物多様性の向上、地域の活性化に貢献する活動を実施しています。



### 生物多様性に資する事業活動

藻類はCO<sub>2</sub>を原料に有用な化合物を産生するため、カーボンニュートラル事業へと直結する可能性が大きい分野です。大陽日酸社は、ユニークな藻類株、育種、量産培養を併せた世界屈指の技術基盤と開発環境を有する微細藻類ベンチャーであるアルガルバイオ社への出資と事業提携により、微細藻類の大量培養技術の早期確立などに尽力し、サステナブル社会への取組みを推進しています。



algal bio